



# 導入

子どもの「問い」や「思い・願い」を引き出し、課題意識をもたせます。

教師の働きかけ

## 教材との出会い

「問い」や「思い・願い」を引き出すために

- 具体物を提示しましょう。
  - ・ 写真や図表、動画、楽譜、絵、デジタル教科書
  - ・ 資料の段階的な提示
  - ・ 複数の資料の比較・対比 など
- 既習事項を振り返りましょう。
  - ・ 前時までのノートや掲示物 など
- 実演を取り入れましょう。
  - ・ 教師による実験などの実演・演示
  - ・ 子ども自身が試す活動 など
- 子どもとの対話を大切にしましょう。
  - ・ 生活経験や既習事項を想起させる対話 など



## 学習課題の把握

「何を学習するか」「何ができればよいか」を明確にするために

- 引き出した「問い」や「思い・願い」を基に、子どもの気付きや発言などをつないで焦点化し、学習課題(めあて、課題)を設定しましょう。(導入は、短時間で)
- ※ 教師から課題を提示する場合でも、学習への興味・関心や追究・解決への意欲を高め、学習課題を自分のものとして捉えられるようにすることが大切です。

### <学習課題の条件>

- 子どもの実態に即している。
- 子どもにとって身近で分かりやすい表現になっている。
- 学習への興味・関心を高めることができる。
- 適度な難易度で、解決への見通しをもつことができる。
- 多様な捉え方や解法などを引き出すことができる。
- 子どもにとって追究・解決する価値がある。



「学習したい!」という子どもの気持ちを高めることが大切なのです!



深い学びの実現に向けて



### 「教材との出会い」が引き出す「主体的な学び」

- 教材との出会わせ方を工夫し、興味・関心を高め、「問い」や「思い・願い」を引き出します。
  - ・ 「問い」→子どもが「～かな?」と思うこと
  - ・ 「思い・願い」→子どもが「～したい!」と思うこと
- これらは「主体的な学び」への原動力となるものであり、自ら課題を見いだそうとする態度を育むことにつながります。



### 多様な言語活動による「主体的・対話的で深い学び」

- ねらいを達成するために、次のようなことに留意して言語活動を設定します。
  - ・ 授業のどの段階に位置付けるか。
  - ・ どのような言語活動にするか。(記録、要約、説明、論述など)
- 言語活動は、思考力・判断力・表現力等を高め、言語能力を育みます。
  - ※ 読書は、語彙を豊かにするとともに、言語能力を向上させる重要な活動です。

子どもの姿



なぜ?不思議だな。え?どうしてなの?

考えてみたい!

解いてみたい!

これって、どういこと?調べてみたい!

おもしろい!やってみよう!

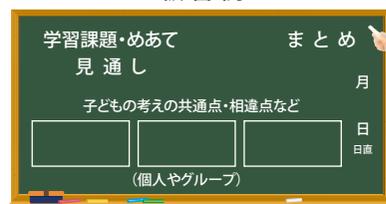
学習課題の把握

## 板書

板書計画を立てましょう。

- 授業の流れが明確になり、指導のポイントがはっきりします。
- 子どもの思考の流れを想定することにより、発問や活動も見えてきます。
- ノート指導にも生かすことができます。

### 板書例



指導技術

板書のポイント	具体的な内容
○ 見やすく、分かりやすい。	<input type="checkbox"/> 文字だけではなく、図、表、写真、楽譜などを効果的に活用する。 <input type="checkbox"/> 黒板やICT(電子黒板など)のそれぞれのよさを生かし、効果的に活用する。
○ 授業の流れが分かる。 ○ 学び直しができる。	<input type="checkbox"/> 学習課題→予想→子どもの考え→話し合いの内容→まとめなど、一連の流れが分かるようにする。 <input type="checkbox"/> 大切なポイントは、吹き出しなどで強調する。
○ 思考力を育てる。	<input type="checkbox"/> 線囲み、矢印などを用いて板書事項を比較、分類、整理するなどして構造的な板書に努める。
○ 子どもと共につくる。	<input type="checkbox"/> 子どもの発言を板書に反映させる。 <input type="checkbox"/> 「名札」(ネームプレート)を黒板に貼るなど、一人一人の考えや立場を明確にする。



# 展開

子ども一人一人の学びを見取って適切に支援し、学習課題の解決につなげます。

## 追 究

### <計画・方向付け・見通し>

追究・解決への手掛かりを見つけさせるために

### <個での追究・解決>

自分の思いや考えをもてるようにするために

- 学習課題と生活経験や既習事項を関連付けて、「何を、どのように追究・解決するか」などの計画や見通しをもたせましょう。
- <結果の見通し>
  - ・ 答えを予想する。
  - ・ 仮説を立てる。
  - ・ 作品の完成図を構想する。 など
- <方法の見通し>
  - ・ これまでの学習で使えることは何か。
  - ・ どのような順序で行うか。 など



- 子どもが「何を、どのように考えているか」を見取り、個に応じた支援をしましょう。
- ・ 個の学びに応じた助言や称賛
- ・ 励ましのコメントの記入
- ・ 模範例や他の作品の提示 など
- 机間指導をしながら、その後の展開を構想しましょう。
- ・ 誰の思いや考えを取り上げるか。
- ・ 誰と誰を関わらせるか。
- ・ どのような順序で取り上げるか。 など

- 子ども一人一人が計画や見通しをもてたか見取りましょう。
- ・ 一人一人の発言やノートの記述内容、聞き取り
- ・ ペアやグループでの話し合いの様子 など
- 困っている子どもに寄り添い、全員が「追究・解決したい」という思いをもてるよう支援しましょう。

※ TTの授業では、役割分担をして効率的に見取りましょう。見取った子どものよさなどについて情報交換し、その後の展開に生かすことが大切です。



### 「計画・方向付け・見通し」で高まる意欲

- 「計画・方向付け・見通し」をもたせることで、次のようなことが期待できます。
- ・ 追究・解決への意欲の高まり
- ・ 目的意識をもった粘り強い取り組み
- 「計画・方向付け・見通し」をもつことができるよう支援することは、子どもが「見方・考え方」を働かせるきっかけとなり、「深い学び」に近づきます。



### 見取りと支援で促す「主体的・対話的で深い学び」

- 一人一人の学びの姿を、次の視点で見取ります。
- ・ 追究・解決への意欲はどうか。(主体的な学び)
- ・ 他者との対話や先哲の考え方などの手掛かりが必要か。(対話的な学び)
- ・ 「見方・考え方」を働かせているか。(深い学び)
- 見取りを基に、個に応じた支援をすることにより、「主体的・対話的で深い学び」を促します。

何をえば解けるかな？



こんな表現にしたいな。どんな計画を立てればいいかな。



ここまでではできたけど……。



どうしていいかわからないよ。



やったあ!できた!



## 机間指導

机間指導のポイント	具体的な内容
○ 少人数教育のよさを生かして、子ども一人一人の学習の様子を見取る。	<input type="checkbox"/> ノートやワークシートを「観る」。 <input type="checkbox"/> 学習の進め方や理解の実態を「診る」。 <input type="checkbox"/> 学びの様子を把握して、個に応じた「看る」。
○ 少人数教育のよさを生かして、子ども一人一人を適切に評価する。	<input type="checkbox"/> つまずきのある子どもには、具体的に支援する。 <input type="checkbox"/> 学習の深まりのみられる子どもには、学習の支援者としての役割をもたせたり、別の立場から考えさせたりする。
○ ペアやグループでの話し合いの状況を見取る。	<input type="checkbox"/> 友達との関わりを「観る」。 <input type="checkbox"/> 学習の進め方や理解の実態及び変容などを「診る」。 <input type="checkbox"/> ペアやグループの学びに応じて「看る」。
※「みる」について	これらの視点で机間指導をすることが大切です。
○ 「見る」…そのときの反応や、学級全体の傾向を知るとき	
○ 「観る」…ノートへの記入状況や課題への取組状況など視点を決めて把握するとき	
○ 「診る」…学習の仕方や理解の方向は確かであるかを把握するとき	
○ 「看る」…子どものつまずきを丁寧に捉え、理解や活動を促すとき	

## 発問

発問のポイント
○ 「問い」や「思い・願い」を引き出す。
○ 学習課題を明確にする。
○ 課題の追究・解決の見通しをもたせる。
○ 課題の追究・解決に取り組ませる。
○ 課題の追究・解決をより確かなものにする。
○ ねらいと対応させてまとめる。
○ 新たな学びへの意欲付けを図る。
※ その他の留意事項



注:ここに示した学習の流れは一例であり、授業のねらいや学習内容などに応じて変わります。

## 解決

### <ペアやグループ・学級全体での話し合い> 思いや考えを広げ深めることができるようにするために

#### ○ 友達との交流を通して、考えを共有・吟味させましょう。

- 考えを共有したり比較・検討したりする場の設定
- 理由や根拠を基に判断する場の設定
- 目的に応じたグループ編成
- 活動にふさわしい人数設定 など

#### ○ 思考過程を可視化しましょう。

- 吹き出し、線囲み、矢印などの使用
- チョークの色の使い分け
- 小黒板の活用 など

#### ○ 子どもたちの考えを基に話し合いをコーディネートし、ねらいに迫りましょう。

- 話し合いの論点や議題の明確化
- 子どもを考えを引き出し、つなげる支援
- 問い返しやゆさぶりなどの働きかけ
- 話し合いに全員を参加させる姿勢 など

#### ○ つまずきを取り上げる場合には、その子どもの思いに共感しながら、適切に支援しましょう。

- 子どもの意見すべてに価値があるという考え
- 自分の思いや考えなどをうまく伝えられない子どもへの配慮 など

子どもの内面を見取り、教師と子どもの対話、子ども同士の対話が重要なですね。

### 【ペアやグループでの話し合い】で広がり深まる思考 【見方・考え方】に基づく【学級全体での話し合い】

#### ○ 目的を明確にしたペアやグループの話し合いでは、次のようなことが期待できます。

- 他者に伝えることによる思考の整理
- 他者からの情報による新たな気付きや発想

#### ○ 自分の考えを素直に表現し、相手の考えを共感的に聞くことは、思考の広がりや深まりにつながります。

#### ○ 全体での話し合いでは、次のようなことが期待できます。

- 友達の考えを理解しようと、興味をもって聞く。
- 自分の考えを説明したり、主張したりする。
- 友達の考えに質問したり、反論したりする。

#### ○ 子どもたちが働かせた「見方・考え方」を見逃すことなく注意深く見取り、称賛したり広めたりして、「深い学び」を実現します。



学習課題の解決

#### 具体的な内容

- 子どもの既成概念をゆさぶる資料や事象提示などと結び付ける。
- 誘い込むような口調で具体的に発問し、興味・関心をもたせたり、疑問、驚き、矛盾、憧れを感じさせたりする。

- 中心発問を精選し、できるだけ少ない発問にする。
- 子どもの考えを広げ深めるために問い返しやゆさぶりなどの働きかけをする。
- 多様な考えを比較、検討、選択、統合などするための発問をする。

- ねらいに即したまとめを行うとともに、分かったことやできるようになったことを自覚させる。
- 次時への学習意欲を喚起する。

- 発問に対する応答を予想しておく。
- 発問の意図と内容を明確にし、1回で子どもに伝わるようにする。
- 発達の段階にあった適切な言葉を用いる。
- 子どもたちのよいモデルとなる話し方をする。
- 話す速さ、言葉の調子と抑揚、問の取り方、豊かな表情を意識する。

#### □ 共有させるための教師の働きかけの例

- 【予想】「○さんの式の意味を説明できますか」  
「○さんの考えの続きが言えますか」
- 【再生】「○さんの説明をもう一度言えますか」
- 【換言】「○さんの考えを別の言い方でも言えますか」
- 【要約】「○さんの考えを簡単に言えますか」
- 【共感】「○さんの気持ちが分かりますか」
- 【発見】「○さんの考えのよいところはどこですか」
- 【補助】「○さんの考えのヒントが言えますか」

#### □ 考えを深めるための問い返しの例

- 【事実】「どういうことですか」
- 【方法】「どのように考えたのですか」
- 【理由】「どうしてそうなるのですか」 など





# 終末

子ども一人一人に振り返りを促し、新たな学びにつなげます。

## まとめ・振り返り

## 新たな学び

「何を学習したか」を明確にするために

学び続ける態度を育てるために

○ 「何を学習したか」をまとめましょう。

- 自分の言葉でまとめる時間の確保 (発達の段階に応じて)
- 本時のねらいとまとめの整合
- 学習した知識・技能を活用する活動の設定 (適用問題への取組、作文や新聞づくり、演奏や運動による表現など)
- 日常生活に関連した事例の紹介 など

○ 「どのように学習してきたか」を振り返りましょう。

- 板書やノートを基にした確認
- ペアやグループでの話し合い
- 自己評価 (学習日記など) や相互評価の活用 など



○ 新たな学びに目を向けさせましょう。

- 次時につながる気付きや疑問
- 新たな「問い」や「思い・願い」を引き出す教材の提示
- 次時の学習内容の紹介
- 学習したことを活用できる身近な地域社会の問題の紹介 など

「学習したこと」を自覚させ、自分のよさ、共に学ぶよさを意識させることが大切なのです。

導入、展開、終末と、子どもを中心とした授業づくりが、子どもの学びの質を高めることにもつながるのです。



### 「まとめ・振り返り」による「深い学び」と「学びへ向かう力」

- 「まとめ・振り返り」により、次のような子どもの姿が期待できます。
  - 「見方・考え方」を伴った理解の深まり
  - 自分の成長や変容、友達のよさや集団で学ぶよさなどの気付き
  - 充実感、達成感、有能感などの学びの手応え
  - 新たな課題の発見
- 「振り返り」が、学びを深め、次の「学びへ向かう力」を育成します。

### 「新たな学び」を促すために

- 学びの連続性を大切にします。
  - 「課題→追究→解決→新たな課題→追究…」という学習の過程
  - 「授業→家庭学習→(朝の学習)→授業…」という学習サイクル
- 「分からないことに気付く」「新たに追究・解決したいことが見つかる」ことは、価値あることです。

今日は〇〇を学習して、□□というきまりに気付いた!

練習問題を解いたら、〇〇の使い方がよく分かった!

今日学んだことは、こんなところにも使われているんだね。



〇〇さんのあの考えはすごいなあ!

明日はもっと上手に説明できるようになりたいな。

できるって楽しいな! 家でも繰り返し練習してみよう。

もし、〇〇だったら、どうなるのかな? 家でも調べてみよう。

このときは、一体どうなるんだろう? 自分で解いてみよう。



新たな学び  
本時のねらいの達成

## ノート指導

ノート指導のポイント	具体的な内容
○ 学習した内容を確実に記録させる。	<input type="checkbox"/> 学習の月日、本時の学習課題、自分や友達の考え、学習のまとめを書かせる。 <input type="checkbox"/> 学習課題やまとめ、重要事項などは、色鉛筆などを使って書いたり囲んだりして、振り返ることができるようにする。
○ 自分の思いや考えなどを分かりやすく記録させる。	<input type="checkbox"/> 学習課題から解決、新たな「問い」や「思い・願い」までの流れを書かせる。 <input type="checkbox"/> 図や表、吹き出しなどを、効果的に用いることができるように指導する。 <input type="checkbox"/> 板書だけでなく、自分の考えや友達の考えなども書かせる。 <input type="checkbox"/> 考えるためのメモや計算などは、消さずにそのまま残しておくよう指導する。 <input type="checkbox"/> まとめの観点を与え、発達の段階に応じて自分の言葉でまとめさせる。
※ その他の留意事項	<input type="checkbox"/> 定期的にノートを提出させ、取組のよさを認めたり、アドバイスを与えたりする。 <input type="checkbox"/> ワークシートだけに頼らず、自分でノートにまとめる力、自分のノートをつくり上げる力を育てていく。